



「不思議なクニの憲法」上映会に130名参加！

2019年11月30日(土)午後2時～4時30分 @狛江市民センター

松井久子監督 の話(要旨)

30分余りにわたって熱く分かり易く語られたお話しを世話人会の責任で要旨をまとめました。

若い人たちに届けたい

私は社会派ドキュメンタリー映画の作り手でなく、女性の生き方をテーマに劇映画をつくってきた人間です。ところが安倍政権になってから、こんなにひどい政治が続いた上に、憲法まで変えられたら大変！という、一市民としての危機感がありました。そこで、こういう問題に関心を持っていない人々に向けて、「運動」と少し遠い所にいた私だから伝えられることもあるのでは？という思いで、この映画を作りました。

2015年5月3日に制作開始。2016年5月に完成・公開。その後現在まで1300カ所位で上映会をしていますが、なかなか広がっていきません。

いざ国民投票になったときに、最低限のことはちゃんと理解して自分で選択できるようにという思いで作ったのに、どこの上映会に行ってもお客さまの大半がシニアで、私が見せたい人、見て頂きたい人はそのことに関心がないのです。

シニアの方々には子どもの頃に、日本国憲法の素晴らしさの教育も受け、親からも学び、戦後の大変厳しいところも見てきたので、本当に心配しています。ところが、これからこの国を担っていく若い人たちは、いくら話をしても、むしろ話をすればするほど関心が遠のくという状況で、その問題がなかなか解決できずに今に至っています。

今の社会を見ていると、若い人が、例えばこういう映画の上映会や議論の場に来るとか、国会デモに参加したら、自分の将来の就職にまで関わるのではないかという空気に支配されている。人々はその空気に流さ

れて、難しい問題は触らない方がいい、何も考えない方がいいと無関心でいるのではないのでしょうか。それこそ安倍政権の思うツボなのですが…。

この映画は今まで2回改訂

ところで、2016年にオリジナル版を発表してから現在まで、映画の内容に2回の改訂を加えています。最初は、とにかく憲法に関心のない一般の方に、まずは「憲法の話は、政治問題やイデオロギーの問題とは違う」ということを理解して頂きたいと。憲法=政治でなく、憲法に書かれているのは「私たちがどう生きるか」ということで、改憲問題(国民投票)は、私たちの日々の暮らしがどうなるかということ、私たちが自分で選択することなのですよ、と訴えたのが最初のバージョンでした。

2番目のバージョンはもっと深く、例えば憲法に書かれていることと、自衛隊があることの矛盾です。つまり戦争放棄の9条と、戦後政府によって警察予備隊や保安隊、自衛隊と作られ、受け入れてしまいこまできていた現実との矛盾について、私たちは主権者レベルでしっかりと議論したことがあったらどうか。そこが解決していないことが、正面から向き合えないことが、もしかしたら若者たちの興味を遠ざけているのかもしれないという思いに至って、2作目は2時間半と、長いバージョンを作りました。9条が抱えている矛盾とどう向き合うかということも、主権者として考えなくてはいけないのではないかと、きちんと議論をした上で、自分が何を選ぶかを判断してほしい、と思ったのです。

ところが、1本目よりも難しくなったという意見や、9条が示している規定と、実際自衛隊が海外に派遣されている矛盾をどう考えるかという、本質的な議論をし出すことは、9条を「守る」という観点から逸脱する行為だという護憲の人たちからの反発もありました。そして護憲派の分断を心配していたとき、安倍首相の9条加憲、具体的に4つの項目を出して議論の俎上に載せるということが出てきたのです。2012年の自民党改憲草案もそうですが、憲法が自民党の狙い通りに変えられてしまったら、本当に、まったく違った国になってしまいます。それで最新のバージョンでは、安倍改憲を止めなければ大変なことになるという思いで、今までのバージョンよりも、一番私の願いや主張が入った内容になっています。



ドイツの学生からの的を射た質問

何度も試行錯誤し、映画を作り替えてきた過程が、まさに改憲問題の難しさだと痛感しています。

特に若い方にこの問題を知って頂きたいとの思いで全国を歩いて、沢山の若者取材しましたが、伝えようとした若い方になかなか伝わらないので、大学中心に呼びかけていきました。が、大学でも授業で取り上げて貰うのは難しく、一般公開講座にすると、実際の参加者はいつもシニア層で、学生は皆無と言ってもいいほどでした。

でも、ドイツの国立大学5ヶ所とソウル大学には2回、外国の大学には招かれました。ドイツでは授業で見せたい、私と学生を議論させたいと、私も招いて頂きました。観た後の学生たちの質疑や議論も、とても活発で、有意義な体験でした。

特に的を射た質問だと感心したのが「この映画は、日本の東アジアへの加害責任を語っていない」というもの。ドイツでは10年生（日本の高校1年）で、一年間かけてナチスの戦争犯罪について学ぶので、加害責任の問題が若者の中に染み込んでいます。「日本も

南京虐殺などいろいろあったと聞くが、そういうことの実を自分たちは学びたかった」と言われました。

また3.11以降、ドイツは国を挙げての議論の末に脱原発を選択したが、日本は逆の方向に向かっているように見える、と。つまり原発事故のあった日本は彼らにとって、遠い極東の島国の問題とは思えず、日本の憲法、政治、原発の今後を自分たちの問題として捉えていると感じました。

教室には日本からの留学生もいましたが、皆、下を向いて、質問も発言もありませんでした。が、アンケートを読んで、彼らの気持がわかりました。

ひとつは、なんで自分たちはこんな大事なことを、高校を卒業するまでに教わってこなかったのかと。そのことにはとてもショックを受けていた。自分は、平安鎌倉江戸時代のことは詳しく学んできたのに、現代史を学んでこなかった。自分が知らなかったことが恥ずかしいと、多くの日本人学生がアンケートに書いていたのです。

もうひとつ、とても興味深かったことがあります。ドイツの学生達から、「どうしてこれだけの映画をつくったのに、それが安倍政権を変えるという方向にいかないのか」という質問を受けたので、「それはたぶん、日本の社会そのものが、安倍政権と大企業がリードして進めている社会なので、市民レベルの人々に危機感が伝わっていかないのだと思う」という私の発言に「かなりの怒りを感じた」という日本人の女子学生の抗議もありました。海外に来て、大企業と安倍政権を敵のように公言するあなたは一体どういう神経をしているのか。私の父は大企業に勤めているが、立派に日本国民として、自分も尊敬してきたし、恥ずかしいことをしているとは思えない。それなのにどうして大企業と安倍政権を悪くいうのか、と。色々な感想が出て、本当に勉強になりました。

東アジアとの関係に向き合わなければ

以上の体験から、東アジアとの関係にしっかり向き合うことが必要と思い、映画がソウル大学に招かれたとき、ソウル大学日本研究所のナン・キジュン先生にインタビューして、それを今上映している最新バージョンに入れました。

彼は「日本は平和憲法をもつ平和国家と言っているが、私たちから見ると平和国家とは思えない。基地国家でしょう？」と。もうひとつの指摘は「憲法の成立

過程から見ると、1条の天皇制と9条はセットである。安倍改憲が実現したら9条は集団的自衛権を丸ごと認めるものとなり、植民地支配されてきた自分達から見れば自衛隊は<皇軍の復活>という受け止め方になり、とても許すことができません」と。このふたつの問題提起をぜひ映画の中で見て欲しいと思います。

私は先週、ソウルで「日韓市民100人未来対話」に参加してきました。日韓それぞれ50人ずつの参加で、今年が3回目。市民同士で直接話してみるといろんなことに気づきます。GSOMIAについて、日本のほとんどの市民は、メディアの報道から「GSOMIAが失効とならずに、うまくまとまればいい」と願っていました。しかし韓国では、そう考える人もいるが、もっと多くの人たちが「GSOMIAは米国と日本のためのものだ。文大統領と多くの韓国市民の願いは、南北朝鮮二国と日本とが三角形の平和と非核のアジアをいかに構築するかであり、米に従う状況は喜べない」と。これを聞いて、日本の偏向した報道だけに接してはわからないことが沢山あると思いました。だから、私たちが気をつけねばならないのは、マスコミ報道がここまで政権に牛耳られている今、私たちが新聞テレビの報道を見るだけでは真実はわからないということ。マスコミが権力チェックの役割を果たしていないということです。

今こそひとりひとりが、自分の頭で考え、勉強し、伝え合うことが大変大事なときにきていると思います。

自分の国の憲法に関心をもたない「不思議なクニ」

安倍政権の今のやり方は国家運営でなく、安倍さんは株式会社の社長のように見えます。桜を見る会の問題も、皆うんざりしているだけで変わらない。政治が変わらないのは私たちに伝える力が足りないとの自戒もあります。この映画のタイトルをなぜ『不思議なクニの憲法』としたのかというと、イデオロギー色の強い、政治的な臭いがつかないように。不思議な“クニ”というのは、安倍さんがやっている日本という国家が不思議だけでなく、もっと不思議なのは国民がこれだけ自分の国の憲法に関心をもたない、これだけ選挙をしても投票率がここまで低い、こんな先進国なんてどこにもないという意味で、つまり国家が不思議

というよりも、私たち国民が一番不思議だと思いませんか？という思いをこめて、カタカナでクニとし、「不思議なクニの憲法」としたのです。

一番大事なのは、この映画最後の竹下さんのナレーションで、それが私のお伝えしたいことです。(註:竹下さんのナレーションは日本国憲法の前文や9条、11条などの朗読)

(文責: 広木、小俣 校正: 松井監督)

参加者の反応は

参加者は130名にもなり、市外からも49名の方がいらっしゃいました。アンケートに答えてくれた方は46人で、そのほとんど39の方が映画を「良かった」と評価していました。

アンケートに寄せられた意見 (一部)

○憲法を分かりやすく話して下さった映画で、改憲の問題点が捉えやすかった。また、外国から見た日本の捉え方を知ることができた。戦争時の歴史を学ばない日本の問題点を実感します。(60代)

○ずっと拝見したかった映画、やっと見せていただくことができました。感謝申し上げます。あらためて憲法の大切さが心に染みしました。太田さんが言われた「希望の憲法」、伊藤さんが言われた「理想の憲法」、今日学んだこの2点を忘れずにいたいと思います。有難うございます。

生意気ですが、松井監督さん素敵で憧れます！！ますますのご活躍をお祈りします。(50代)

○会場を見回して、やはり高齢者の集会だ…と感じましたが、松井監督も同じご指摘でした。ならば高齢者としてがんばらねば！とまず、思いました。日本人の近現代史にたいする無知も実感。最近「それ



でも日本人は戦争を選んだ」という本を読みました。私たちは太平洋戦争がアジアの侵略戦争であったことを学んでいないと実感しました。だから、戦争と憲法のつながりがいまひとつ他人事なのかもしれないと思いました。(60代)

○私たちの子どもや孫たちから「なぜあの時憲法改定

を止めなかったのか？」と言われたいように、今できることをやりたいです。(60代)

○なぜ憲法を改正したい人がいるのか。最後のナレーションの日本国憲法、あたたためて素晴らしい文言であると思いました。この素晴らしい文言を私たちは本当の意味で習ってこなかった、学校で勉強してこなかったのだと思います。本当に本当にこのような映画、教育現場で観られているべきです。日本の若者が本当にこの憲法のありがたさをわかるようになるために。(70代)

ブックレットが便利

上映が終わった後に松井監督のサイン会があり、多くの方がブックレット『読む 不思議なクニの憲法』にサインしていただきました。これには映画の中の言葉がすべて収録されていますので、その言葉を再確認したり、論理構成をたどったり、引用したりできる優れたものです。このブックレットは書店でも注文できます。株式会社エッセン・コミュニケーションズ発行で定価1000円。

成人の日に

「日本国憲法」のチラシを配りました

1月13日の成人式に合わせて13名で100部のティッシュ付きチラシを配りました。「日本国憲法」の大事な部分を若者向けメッセージとして抜粋しました。

日和もよく、温かい日差しの中で「成人式おめでとうございます！」と声をかけながら配りました。

「No War!」「9条改憲NO!」のプラカードを掲げて配った人もいましたが、拒否感はなかったようです。

受け取りはとても良かったです。やはりティッシュ付きというのは強いなと感じました。

付いているチラシを読んでもくれた人も2~3人見かけました。多くの成人が読んでくれるといいですが。。

「来年は200部撒こうね」という声も出るほど、順調なティッシュ配りでした。



集会などのご案内

許すな政治の私物化!STOP 改憲発議!新署名スタート!安倍政権を退陣させる!2.6 市民集会

2月6日(木)18:30~

会場:北とぴあ・さくらホール

参加費無料

主催:安倍9条改憲NO!全国市民アクション

九の日行動 新しい署名活動「改憲発議阻止」

安倍総理が任期切れを前に改憲発議を狙っています!この緊急事態に対応するため、全国市民アクションが新しい署名活動を呼びかけました。

戦争なんてイヤだ!狛江市民実行委員会もこれに取り組みます。

場所:狛江駅北口

・2月9日(日)3時~4時

・2月19日(水)3時~4時

ちよこみな第6回トークライブ

~「共闘」で政権交代は起こせるか?~

トークコーディネーター:山口二郎(市民連合)

トークゲスト:山花郁夫(立憲民主党)、山添拓(共産党)、横田昌三(社民党政策担当常任幹事)、れいわ新選組(要請中)

2月14日(金)18:30~21:00 @調布グリーン小ホール 参加費:300円

※山花さんには憲法審査会での野党共闘の様子を話してもらいます。

教科書カフェ Part II 教科書ってなに?

「本当に子どもたちに伝えるべきことは・・・」

3月7日(土)14時~16時

@市民センター視聴覚室

お話:石山久男さん(子供と教科書全国ネット代表委員、歴史教育者協議会前委員長)

資料代:200円

共催:新日本婦人の会狛江支部・子どもと教科書狛江の会・都教組北多摩東支部狛江地区協

会計報告 (2019年1月~12月)別紙参照

収入=390,476円、支出=271,240円、
残高=119,236円です。ご協力有難うございます。